

〔槐記〕享保十四年二月十八日、參候、今ノ人、風爐ノ茶ニ、伽羅ヲ燒ヌコトハ、心得ガタシト、無禪ガ常ニ申シキ、宗旦ガ應山ヘ、參リテ御物語ヲ申シ上ゲシ序ニ、風爐ノ茶ハ、イカホド出シケルニヤト仰アリシニ、宗旦ガ最早今一兩度ナラデハナラズ候、伽羅ガナクナリタリト申タリケレバ、夫コソトテ伽羅ヲ下サレケルトナン、ソレホドノワビ人ニテモ、風爐ニハ伽羅ヲ燒ケルニ、今ノ人ノ、古金襴ハ愛シテ、伽羅ヲツケボシニ易ルコトハ何ゾヤト申シキ、五月十八日、風爐ノ茶湯ニハ、亭主口ノ戸ヲタテヌコトアリ、此ゴロノ御茶ニモタテラレズ、ヲボエアリヤ、先一ツ羽ノ箒ヲ出サントシテ、先棚ニ三ツ羽ノ箒ヲカザルトキハ、勝手口ノ戸ハタテヌガヨシ、先出デテ棚ヨリ香合羽箒ヲ下シ、釜風爐ノマハリヲ掃テ、ソノ羽箒ヲ勝手ヘ入レザマニ、灰ノホウロクニ一ツ羽ヲノセタルト引カヘテ出ス、ソノ爲ニ勝手ヲ開キオクナリ、先ハアツキ時分ニテ、開キヲキテモ好シ、羽箒ノ二ツ、一場ヘ出ヌヤウニトノコトナリト仰セラル、

〔茶道聞書集乙〕少庵風爐の名残は、六ヶ敷ものと被仰候由、流芳軒御申候、與に成涼しく候由、人の物語也、

風爐名残、本文の様子にては、如心齋若年の頃迄は至て稀成事のよし、啐啄齋も名残面白きものと毎日申されし、

〔槐記〕享保十二年八月廿一日、參候、風爐ノ名残ト申ヌコトハ、何トゾ其アシライアルコトニヤト窺フ、爐ノ名残ト云コトハアリ、風爐ノ名残ト云コトハ先ハナシ、風爐ノ名残ト云ヘバ、八月九月也、古ヨリ八月九月ハ、至極茶湯ノナラヌ時ナリト、常修院殿○慈胤モ常ニ仰ラル、八九月ハ、何トシテムツカシキゾナレバ、口切ノ用意ニ、庭ヲモ道具ヲモ直ス時ニシテ、口切ニ間モナシ、至極仕ニクキ時也ト仰ラル、ソレハ如何ニヤト窺フ、常修院殿ナド毎度仰ラル、風爐ハ奇麗ヲ第一トシテ、涼シキヲモトス、八九月ハ新涼ニ、ソノアシライモ仕難シ、又爐ノ様ニモナラズ、其間ヲ料理一ツニモ氣ヲ付ベキナレ